

「次代を担う支援者養成研修」実施報告 [\(詳細はこちら\)](#)

8月19日から10月15日にかけて当センターで「次代を担う支援者養成研修」を開催し、35名が受講されました。

本研修実施にあたって

子ども・若者の支援にかかわることを目指す参加者の皆様方が、困難を抱える子ども・若者への支援に関する理解を深めるとともに当事者性を高めて、将来の支援者として、気づき・つながり・寄り添い・信頼関係を築く実践力の向上を図り、少しでも子ども・若者たちの未来が明るくなってほしいと願っています。

愛知県生涯学習推進センター センター長 小杉正樹

参加者 講 義 1日目 33名、2日目 31名
実地研修 18名 全体交流会 29名

研修1

「アウトリーチの価値と倫理」

全国こども福祉センター理事長 中京学院大学専任講師 荒井和樹 氏

【参加者の声】

- ・講義を受けて自分自身の価値観が変わりました。何らかの形でサポートさせていただく機会があればいいと思います。
- ・子どもたちに支援者が支援する、という態勢がどうしても抜けない。そのとおりだと気づかされました。子どもたち自身に、役割を与えて子どもたちを支えるエンパワメント、自分たちで動く主体性の重要性に気づかされました。



研修2

「若年女性を取り巻く実態」

10代20代の生きづらさを抱えている女性を対象にした居場所づくりから見えてきたこと」

特定非営利活動法人ひだまりの丘 meguruhouse 代表 久野 恵雅 氏

【参加者の声】

・「助けて」と言ってもらえる「人」になりたいです。支援者が「助けて」といえることも重要であることを気づかされました。

・私は、まわりの目を気にすることが多く、それ中心に生活がまわっています。自分の本当の気持ちを打ち明ければ否定されるかも、友人じゃなくなってしまうかもしれない恐怖感があった。自分と同じ思いの女性がいることを講義で知れて、より若者世代を支えたいと思うようになりました。



研修 3

「子どもたちに寄り添う」、「社会的自立」、「対象者を取り巻く人間関係にも踏み込んだアプローチ」について

NPO 法人陽和 理事長 渋谷 幸靖 氏

【参加者の声】

- ・自立の意味を「人に頼ることができる人」という説明は大きな気づきでした。
- ・寄り添うということはどういうことか？本人のそうならざるを得なかった理由（家庭環境や発達の問題など）を理解し、親子関係からたどり、どんな状態でも受け入れられる、味方になれる大人が一人でも増えるといいなあと思いました。そばに添うということですね。



研修 4

「アウトリーチという名の異文化交流」「社会資源の活用の難しさとその対応策について」

一般社団法人 愛知 PFS 協会 代表理事 星野 智生 氏

【参加者の声】

- ・専門性より関係性を重視していく姿勢は本当に大切です。「専門じゃないから」と言っている場合ではない。
- ・これまで「支援」という立場で考えていましたが、子どもたちの思いを肯定し、ただ何もしゃべらずにそばにただで良いということにとっても驚きました。



ワークショップ

- ・自己紹介
- ・講演を聞いて学んだことや気づきを参加者皆さんで共有

【参加者の声】

- ・自分と近い考えや、気づいていなかったことに気づけたことなどがあり、とても良い時間になりました。色んな立場からの意見を聞いたことも貴重な経験になったと思います。
- ・それぞれの受講のきっかけ、目的は異なるものの、「よりそう」ことの難しさや、本当によりそうことって何？と気づきや共感する部分が同じだと感じる事が出来、良かったです。
- ・自分の心のもやもやや悩みを打ち明けることができ、人生の先輩方から貴重なアドバイスをいただくことができ、本当に良かったです。



実地研修

講師の各団体の活動に参加していただきました。複数の団体の活動に参加された方も多くいらっしゃいました。

全体交流会

実地研修参加者による実地研修の感想や今後の活動についてお話しいただき、各団体の講師及び県関係課（地域福祉課・あいちの学び推進課）担当職員からもコメントをいただきながら、参加者同士の交流をしました。



修了証

すべての研修に参加された15名に修了証を授与しました。

【修了書授与者の参加報告】

・斜めの関係(保護者でなく、先生でもない)として同じ目線で話を聞き、小さなことでも褒め、最後に少し方向性を与えてみる。居心地が良すぎてもいけないことを学びました。

今後は、自分の人生経験を活かしつつ、微力ですが、困っている人に寄り添い、サードスペースになればと思います。

・全体交流会で他の方々の感想を聞いて感じたのは、相手の立場に立ち対等に関わることの難しさです。言葉の綾ではありますが、傍に居て“あげる”、話を聞いて“あげる”、といった言葉が感想の中に度々あり、支援者の立場を捉え直すことの難しさを感じました。私を含め支援に携わる人々は今後この課題に向き合い続けていく必要があると感じました。

・活動に参加させていただき、子どもたちから学んでいこうと思います。また、地域で気軽に子どもの声が聴ける場所作りも考えてみようと思いました。アンテナをはって、子どもの現状を知りながら学び続けてみようと思います。